

沖縄北部にパワースポットと言われる備瀬のフクギ並木がある。フクギは並べて植えると緑の壁となり、防風の役割を果たす。約2万本のフクギの木を植えたものが、緑豊かな並木道を作り人々を惹きつけてやまない。並木道を水牛車で観光する様子を写真や動画で目にした方もいるのではないか。

木漏れ日の美しさに癒やされながら歩いていくと、緑の合間から美しい海が見えてくる。私たちを癒やしてくれるフクギの役割は、防風林として災害から人々を守ることだけではない。沖縄の伝統染料として古くから紅型や久米島つむぎの黄色染めとして活用されてきた。久米島つむぎは、2004年に重要無形文化財にも指定された伝統工芸だ。

フクギ並木のある本部町にはフォトジェニックな場所が多い。並木道から見えるエメラルドの

## デザインのチカラ

⑨



伊江島を望むフォトジェニックな空間デザイン (ホテルオリオンモトリゾート&スパ提供)

## フォトジェニック重要

海。陸からは行くことのできない備瀬のワルミなど枚挙にいとまがない。「フォトジェニック」とは、英語で「写真写りのよいこと」という意味だ。この言葉をよく耳にするようになったのは会員制交流サイト(SNS)の影響が大きい。「インスタ映え」という言葉も使われる。これはインスタグラムという写真を中心にした投稿するSNS上で見映えがするという意味だ。個人の利用に加えて、ビジネスに生かす企業や公共団体も多い。海外では王室が情報発信・交流の手段として使うケースもある。写真や動画が拡散することで自動的にPRができ、影響力が大きい。英国王室も女王陛下が行事に参加する様子や王室ファミリーの動向を写真で紹介し、人々との交流に役立てている。

空間デザインの世界でも「フォトジェニック」は重要なテーマで、写真映えを意識したデザインは多い。

本部町にある東洋一の水族館から徒歩5分のホテルオリオンモトリゾート&スパのエントランスの写真映えは圧巻だ。海の向こうに見える伊江島を望むワンショットは、借景を絵画のように楽しむ額縁絵そのものだ。

で、それだけでも十分に楽しめるにもかかわらず、随所に撮影ポイントが設けられている。

水族館から徒歩5分のホテルオリオンモトリゾート&スパのエントランスの写真映えは圧巻だ。海の向こうに見える伊江島を望むワンショットは、借景を絵画のように楽しむ額縁絵そのものだ。

(西谷直子・三井デザインテック・コミュニケーション・エディター)